

学 習 の 指 針 (シラバス)

教科名	家 庭	実施学年	1 年	週時数	2 時間
-----	-----	------	-----	-----	------

1 学習の目標等

学習の目標	居・食・住等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭生活を基盤とし、日本の社会や現代社会について理解を深め、自立の為に必要な能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	「技術・家庭 技術分野」開隆堂

2 学習計画及び評価方法等〈6月1日現在〉 (カッコ内は後期履修の場合)

月	学習内容	学習のねらい	実習	評価
6月 (12月)	・衣服の働き ・衣服の素材と手入れ	・衣服を着る目的や、働きに着いての知識を習得し、活用できるようにする。 ・衣服の素材を知り、素材に適した手入れの方法を考える。		・衣服を着る目的や衣服の働きに気がつけたか。 ・TPO に応じた衣服の選択ができたか。
7月 (1月)	・衣服の構成	・マスクやエプロンを作製し、衣服の構造を知る。 ・ボタン付けなど簡単な衣服の補正ができる技術を身に付ける。	・マスク・エプロンの作製 (今年度、裁縫の実習については十分配慮のうえ実施していきます)	・マスクの役割に気がつけたか。 ・型紙を使用してのマスク作りができたか。
9月 (2月)				・エプロン作りを通して、ミシンの使い方を学べたか。
10月 (3月)	・住まいの働き	・住居の役割や住まいに必要な空間を理解し、よりよい住居環境を整えるにはどのような工夫ができるか、		・自分が住む住居を想像し、よりよい住居環境を整える工夫を考えるこ

	・高齢者と住居	考えることができる。 ・高齢者の身体的変化の特徴に適した住居について考えることができる。		とができたか。 ・高齢者介護の基礎を踏まえた上で、住居環境の工夫を考えたか。
--	---------	---	--	---

3. 評価について

(1) 評価の観点及び内容・評価材料

	評価の観点及び内容	評価材料
生活や技術への関心 ・意欲・態度	家庭科に関する技術に関心を持ち、裁縫やワークにおいて積極的に取り組むことができる。	ワークシートへの記述 ☆授業での実習の態度 (定期テスト)
生活を工夫し創造する能力	裁縫を用いた制作や将来を見据えた住居計画するにあたって、生活を豊かにするための工夫ができる。	☆授業で作成した作品への工夫 (定期テスト)
生活の技能	基礎縫いやボタン付けができる。 ミシンの正しく使うことができる。	☆授業で作成した作品(マスク・エプロン)の制作技能 (定期テスト)
生活や技術についての知識・理解	衣服の素材に応じた手入れの方法を選択できる。居住者に応じた住居環境を整えることができる。	定期テスト

☆印の項目は、授業を欠席した場合評価に含めることができない場合があります。

(2) 観点別評価からの評定の算出の仕方

A=3点、B=2点、C=1点として4つの観点別評価を合計し、下の表に照らして評定を算出します。

評定	観点別評価の合計
5	12点
4	10～11点
3	7～9点
2	5～6点
1	4点